

2026年度 第22回 名古屋東リーグ 大会規定

大会主旨

- (1) 名古屋東リーグとは、勝敗のみにこだわらず、子どもたちが野球を通じて基礎を学ぶとともに、お互いの交流を深めるリーグとする。
- (2) 野球の試合を通じて、人としての教育の場とする。
指導者は選手の手本となりマナーの徹底をすると共に、選手に指導する。
 - ・相手チーム、また選手を尊重する
 - ・審判の判定に素直に従う → 教育のために審判判断で「退場」させることができる
- (3) 名古屋東リーグへの参加は、名古屋東リーグ参加チームの推薦に基づき、監督会議で了承を得る。
複数年参加を条件とする。単年参加は認めない。
- (4) 本大会規約は、年1回開催される東リーグ監督会議で、随時、見直しされるものとする。

[新]: 新規規定 [改]: 改定(改定箇所)に下線

1. 野球規則

[改] 「2026 野球規則」に基づいて実施する。

※「2026 野球規則」が発行されるまでは「2025 野球規則」に基づいて実施する

2. 大会方式

参加チームによる総当たりのリーグ戦方式とする。

3. 試合方式

- [改] (1) 試合時間 1時間20分を超えて新しいイニングに入らない。
最終回の裏の攻撃まで完結させる(順位決定にて総失点、総得点が含まれるため)
- (2) イニング 6イニング制
- (3) 同点時 引き分けとする
- (4) コールド 採用しない
※雨天、日没などで試合継続不可の場合、4回終了で試合成立とする。
4回終了していない場合は「継続試合」として再開する。
- (5) 試合球 ①マルエスJ球とし 双方 2球ずつ提供する
※ホームラン/ファールで試合球がみつからない場合は、その攻撃チームが新たに提供する。
②試合球は返却しない
③無償にてグラウンド提供して頂いたチームには、当日開催全試合の試合球を提供する。
- (6) DH制 採用しない
- (7) 不戦勝 6-0とする
- (8) 投球数 投手の球数制限(70球)は設けない ※選手の健康を考慮し各チームで選手管理すること
- (9) シートノック 試合前シートノックは行わない
- (10) 審判 3審制(球審:連盟より派遣、塁審:当該チームより1名ずつ)を採用する。
- (11) ボーク あからさまなボーク以外は、大会主旨より審判員より監督、コーチ、選手に指導して理解を促す。
判定は審判員一任とする。
- [改] (12) 他 ①ベンチ入りは、監督(30)、ヘッドコーチ(29)、コーチ(28)、スコアラー、チーム代表の5名とする。
但し、夏季時期(7~9月)は、熱中症対策として母親1名のベンチ入りを認める。
②ベンチ入り指導者は、選手と同一のユニフォームを着用、背番号も付けること。

4. 集合時間

- (1) 試合前集合は40分前とし、試合開始時間迄に準備が整わない場合は、球審判断で棄権とみます。
- (2) 前の試合が早く終わった場合 双方チーム・主審との話し合いで早める事ができる。

2026年度 第22回 名古屋東リーグ 大会規定

5. 選手構成

Bリーグの選手構成は以下とする

(1) 5年生以下の男子、及び6年生以下の女子の参加とします。

[改] (2) オーバーエイジ枠として、6年生男子2名までは出場を可能とします。

※オーバーエイジ利用の場合、ベンチ内に出場していない5年生以下選手が居ないことが望ましい。

(あくまで5年生以下選手優先)

※6年生男子の投手起用は禁止とする。

※オーバーエイジ対象選手が把握できるように、メンバー表に「OA」と明記する。

6. 順位決定

「勝ち点方式(※勝ち 3ポイント , 引き分け 1ポイント , 負け 0ポイント)」を採用する。

(優先順位1位) 勝ち点と同じ→勝率によって決定する。

(優先順位2位) 勝率が同じ→直接対決の勝ちチームを上位とする。

(優先順位3位) 勝直接対決が同点→総失点の少ないチームを上位とする。

(優先順位4位) 失点と同じ→総得点の多いチームを上位とする。

7. グランド準備及びグランド整備

(1) 1塁側チーム⇒ベース、3塁側チーム⇒ラインカー・石灰

(2) 試合開始前、両チームで協力し合い、速やかにグランド準備をすること。

(3) 試合終了後、両チームで速やかにグランドを整備すること。

8. 投球練習

(1) 投球練習の投球数は以下とする。

①7球⇒初回、交代(ベンチから)

②5球⇒交代(守備間)

③3球⇒その他

(2) 投球練習の際、捕手防具を着用させること。

(3) 投球練習の際、捕手控えが居ない場合は3塁手が捕手代わりをする。

[新] (4) 投球練習の際、控えの選手並びに3塁手が捕手代わりをする際、座っての投球練習は投球数のマイナス1球で留め、それ以降は立ってのキャッチボールとすること。

9. 試合用具

(1) 金属スパイクの使用は禁止とする。

[改] (2) 一般用バットのうち、打球部に弾性体を取り付けたバットの使用を禁止とする。

※2029年以降、外表面に弾性体(ウレタン・スポンジ等)を取り付けたバットの使用が禁止(全日本軟式野球連盟)

[新] (3) 捕手マスク、捕手ヘルメット、打者ヘルメットは「SGマーク合格品」を着用すること(全日本軟式野球連盟)。

[改] (4) 捕手は、マスク、プロテクター、レガース、ファールカップ、キャッチャーズヘルメットを着用すること。

[改] (5) 打者、次打者、走者、ランナーコーチは、ヘルメットを着用すること。

※ヘルメットは、すべて両側にイヤーフラップのついたものとする(全日本軟式野球連盟)

(6) ランナーコーチ及び投手の走者は防寒具(アウター)の着用を認める。

(7) 手袋、ネックフォーマーはランナーコーチ時及びベンチ内でのみ着用を認める。

(8) 球場内でのバットリングの使用を禁止する。

[新] (9) 投手が使用するグローブは、捕球面・背面・ウェブは2色まで可。

但し、白色/灰色/PANTONEの色基準14番より薄い色の使用は禁止(全日本軟式野球連盟)。

(10) 背番号は、指導者(30、29、28)、選手は0～99番(30、29、28を除く)を付けなければならない。

2026年度 第22回 名古屋東リーグ 大会規定

10. 試合日程調整

- [改] (1) 毎週火曜日12:00までに、その週末及び翌週金曜日までの祝日に試合可・不可をグループラインに連絡する。
※連絡が無い場合、試合可能と判断し、試合予定を入れる可能性があります。
- (2) 木曜日の午前中までに組合せ・試合時間等を決めて連絡します。
- (3) 組合せについてはスムーズに消化出来る様に事務局で公平に決定します。
- (4) 試合決定後の変更は不可とし、不戦敗となります。

11. 試合結果報告

勝利チームが試合当日中にグループラインまで報告する。

12. その他

- (1) 投手は変化球を投げることを禁止とする。
※故意でなくとも審判員から注意をされた後に治らない場合、審判員判断で「ボール」判定とすることができる。
- (2) 次打者はネクストバッタースクールでの素振りを禁止する。また安全面より立っていること。
- (3) 監督・コーチ・選手はマナーを守ること。
審判のジャッジに文句を言ったり、相手チーム・相手選手を傷つけることはあってはならない。
審判判断で退場させることができる
- (4) 審判の判定に対して抗議するときは、監督のみとする。抗議する場合は、ラバーコートを脱ぐこと。
- (5) チーム事情による「連合(合同)チーム」の参加を認める。
※事前に連盟事務局へ連絡すること。
※ユニホームの統一は不要とする

Premier9軟式野球連 終身名誉顧問 清田裕一
運営部長 渡邊卓実